

水郷寺津「すいすいウォーキング大会」

期日 平成22年10月24日（日）

場所 市立寺津公民館

9：00 開会式、準備体操

- ・地域づくり委員長あいさつ（柴田新一・委員長）
- ・日程とウォーキングコースの説明
- ・準備運動

9：30 ウォーキング出発

途中で休憩を取りながらゆっくり歩きます

11：30 交流会

お酒やジュースも用意してあります
ちゃんこ鍋を食べながら
寺津の将来について語り合いましょう

14：00 閉会

寺若稲荷神社（てらわかいなりじんじゃ）

寺若稲荷神社は文政9年(1826)に長瀬重太郎が名主を勤めたとき、築塚・建立されました。文久年間(1861～1864)、若衆が協議して、山城国伏見稲荷神社から分神勧請(かんじょうし)、寺若稲荷と改号しました。毎年9月10日が祭日です。

江戸時代は川の氾濫が相次ぎ、水が引いても須川の硫黄分で農地が立ち直らなかった場所もあったそうです。災害を逃れ豊作を祈願するため、大洪水の2年後に建立されたと思われます。

寺若稲荷神社は出羽三山～本楯(寒河江)～最上川の渡舟～寺津～山寺～二口峠～仙台の通り道になっていて、当時は飴売り、茶店などで連日賑わいを見せていたとも伝えられています。



寺津河岸（てらづかし）



寺津河岸は、安土桃山時代の天正年間(1573～1592)に始まったと言われています。須川と最上川の合流地点で、大変重要な場所だったため、斯波家の二代目・斯波直家は、家臣の藤原秀敏を寺津甲斐守(かいのかみ)として寺津城に配しました。

その後、享保8年(1723)に幕府の公認河岸になり、競争の結果、天明(1781～1789)末期には舟運の主導権が船町から寺津に移りました。明治10年頃には、船宿や小鵜飼通船、荷馬車ひき、酒屋、蕎麦屋、湯屋、飴屋などが49軒もありました。また、船荷の運送に高掬、中野目、蔵増、藤内新田、灰塚などからも100台近くの荷車が集まったそうです。

砂河原地蔵尊（すなかわらじぞうそん）



安産、いぼとり、ぼけ封じと合わせて夜泣きに効くお地蔵さまです。ただし、願い事は1回にひとつだけ。色々お願いすると全部ご利益がなくなりますので、お礼参りを済ませてから次の願いをします。石の地蔵様には「寛永3年(1750)船町地蔵講中」と刻まれています。

源氏山（げんじやま）

源氏山は天明6年(1786)に瀬野庄九郎の次男として生まれました。文化4年(1807)[22歳]に「富士ノ越吉太夫」の四股名で幕下15枚目となり、文化11年(1814)[29歳]にして入幕、文政2年(1819)に東方関脇に昇進し、源氏山吉太夫と改名しました。この銅像は、その功績を後世に伝えようと、平成13年(2001)12月に建立されました。



関端（せきばた）

室町時代、寺津甲斐守(かいのかみ)が洪水を防ごうと日枝神社の西側から現在の藤内新田運動公園まで堰を掘りました。「関端」という地名は、「堰の端」というところに由来しているのではないかと思います。なお、日枝神社の「瑞元の森」は、そのときの掘割の土を積んだもので、法泰寺の住職・瑞元が設計したものです。